

SAF Idea Challenge 2026 補足説明

What is SAF?

廃食油、微細藻類、木くず、廃棄物などの再生可能原料から製造される燃料。化石燃料由来のジェット燃料と比べるとライフサイクル（原料生産・調達から、製造、輸送、燃料使用まで）でCO₂排出量を約50～80%（※）削減できる。※削減率は原料や製造方法により変動。燃料規格のほかCORSIAやEU RED等の国際規制・認証基準を満たすことが求められる。

なぜ今 SAFの社会実装が急務なのか？

脱炭素の「切り札」

- ・エネルギー密度の観点から航空機は電動化などが物理的に難しく、ATAG, IATA, ICAO等の国際機関が掲げる航空業界の脱炭素化目標の達成に向けて、既存インフラを活用できるSAFは必要不可欠な手段
- ・カーボンクレジットとは異なり、SAFはバリューチェーン内で直接的にライフサイクルCO₂排出を削減することができる本質的な対策

SAFの普及率

- ・SAFは「化石燃料由来のジェット燃料に比べて製造コストが高い」「供給量が少ない」といった障壁に直面しており、全世界の航空燃料に占めるSAFの割合はわずか0.6%（2025年）

航空業界の脱炭素を進めるために、航空に関わるすべての関係者（エネルギー供給者、航空会社、政府、旅客、荷主など）が一体となり、社会全体でSAFの課題を解決し、新たな仕組みを構築すること（社会実装を進めること）が求められています。

SAFの課題は複雑かつ多角的で、多様なアプローチが可能です。課題抽出にあたっては必要により以下リンクを参考にしてください。

<参考資料>

- ・我が国におけるSAFの普及促進に向けた課題・解決策（一般財団法人 運輸総合研究所）
- ・SAFを巡る動向と市場構築に向けた論点（みずほ銀行）
- ・持続可能な航空燃料（SAF）の導入促進に向けた官民協議会（資源エネルギー庁）※
- ※「2026年1月28日 第8回」に取りまとめあり
- ・2050年 航空輸送におけるCO₂排出実質ゼロに向けた SAF共同レポート 第2版（JAL）

<課題抽出にあたっての切り口の例>

以下はあくまでも一例です。
これ以外の切り口で抽出される課題はあるため、多角的な視点で検討ください。

